

# 33 アートの会 8 月度 鑑賞会 案内

日時；8月20日 水曜日 10:00 現地集合

場所；大阪市立美術館

## ゴッホ展

参考行程：

JR：芦屋駅から環状線天王寺駅へ 徒歩 15分

9:00 発 新快速（湖西線敦賀行き）9:15 大阪 乗り換え 9:19 発 紀州路快速 9:39 着

阪神：阪神芦屋 9:04 発 快速急行（大和西大寺行き）9:23 西九条着 乗り換え 9:28 発

JR 天王寺 9:40 着

阪急：芦屋川 8:44 発 9:17 梅田駅着 乗り換え 地下鉄へ 9:26 梅田発 地下鉄御堂筋線 9:42 着 メトロ天王寺



## ファン・ゴッホ家のコレクションに焦点を当てた日本初の展覧会

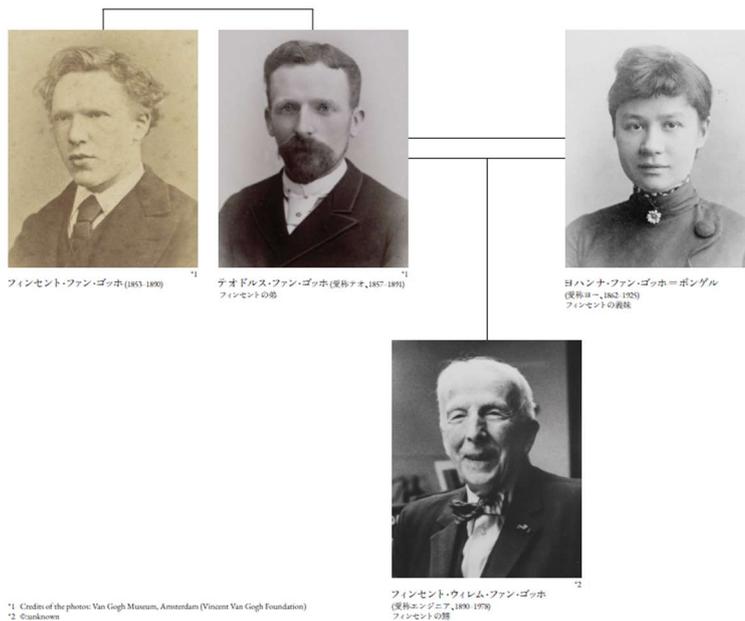
フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890) の作品は、今日までどのように伝えられてきたのでしょうか。本展は、ファン・ゴッホ家が受け継いできた**ファミリー・コレクションに焦点**を当てます。

フィンセントの画業を支え、その大部分の作品を保管していた弟テオ。テオの死後、その妻ヨーは膨大なコレクションを管理し、義兄の作品を世に出すことに人生を捧げます。テオとヨーの息子フィンセント・ウィレムは、コレクションを散逸させないためにフィンセント・

ファン・ゴッホ財団を設立し、美術館の開館に尽力します。人びとの心を癒す絵画に憧れ、100年後の人びとにも自らの絵が見られることを期待した画家の夢も、数々の作品とともにこうして今日まで引き継がれてきました。本展をとおして、家族の受け継いできた画家の作品と夢を、さらに後世へと伝えてゆきます。

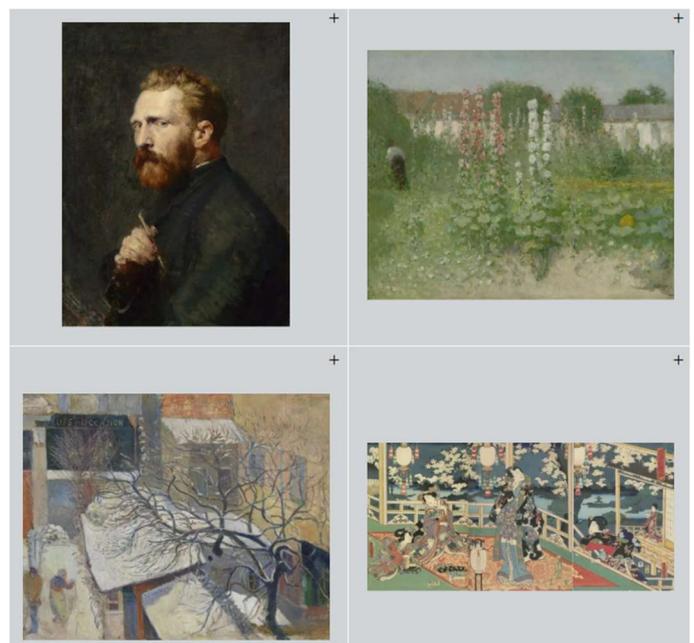
## 第1章 ファン・ゴッホ家のコレクションから ファン・ゴッホ美術館へ

本展でご紹介するファン・ゴッホ家のコレクションの歴史は、フィンセント・ファン・ゴッホの死後、その作品の大半を弟テオが受け継いだところから始まります。本章では、コレクションを継承し、フィンセントの作品を世界へ広めることに貢献した3人の家族をご紹介します。



## 第2章 フィンセントとテオ、ファン・ゴッホ兄弟のコレクション

兄弟のコレクションは、ふたりが生きた時代の雰囲気伝えてくれるとともに、フィンセントの芸術を理解する大きな手がかりとなります。フィンセントとテオはともに十代半ばから画廊で働き始めていて、手頃な価格のグラフィック・アートは若いころから身近なものでした。彼らは版画（オリジナル、複製含む）を買い、ときに贈り合います。画家になる決意をしたフィンセントは、特にフランスやイギリスの雑誌に掲載された挿絵から大きな影響を受けました。

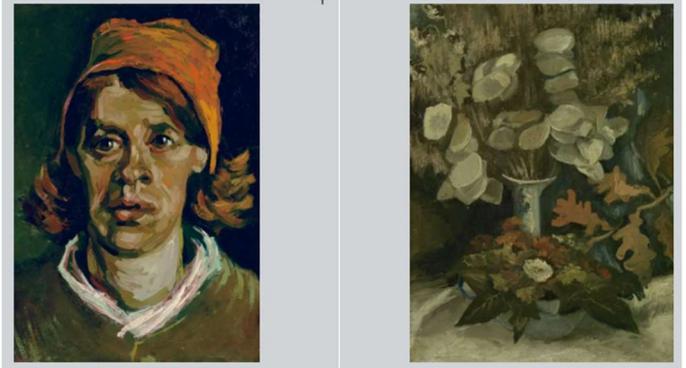


パリでは同時代の美術も収集します。フィンセントが自らの作品と交換で手に入れた作品は、このとき彼が画家仲間から得ていた評価を示すものでもあります。浮世絵を熱心に購入

したのは主にフィンセントで、芸術的な刺激を受けるだけでなく、すでに値が上がっていた印象派の主要画家の作品を、これらと交換で何とか手に入れようと意図したのもありました。

### 第3章 フィンセント・ファン・ゴッホの絵画と素描

フィンセント・ファン・ゴッホが画家になる決意をしたのは比較的遅く、1880年、27歳のときでした。最初の3年間は主にハーグで素描の腕を磨き、その後ニューネンで油彩画に取り組みます。1886年にパリに出ると、自らの表現が時代遅れであることに気づき、新しい筆づかいと色彩表現を取り入れ、独自の様式を生み出していきました。



1888年2月に南仏に移り、アルルで1年3ヵ月、サン=レミ=ド=プロヴァンスで1年を過ごし、自らの表現様式を確立しました。1890年5月にパリ近郊のオーヴェール=シュル=オワーズへ移ります。新しい芸術の可能性を試み続けていましたが、自らの胸部をピストルで撃ち、7月29日に37歳で息を引き取ります。わずか10年という短い画業で驚くほどの数の作品を制作しました。

ファン・ゴッホ家が受け継いできた200点を超える絵画、500点以上の素描・版画は、現在ファン・ゴッホ美術館に保管され、世界最大のファン・ゴッホ・コレクションとなっています。

### 第4章 ヨー・ファン・ゴッホ=ボンゲルが売却した絵画

ヨーはテオと結婚する前には特に美術に縁があったわけではありませんでしたが、パリでテオと暮らしながら、しだいにファン・ゴッホをはじめとする近現代美術に関する知識を身につけました。テオから膨大な作品を受け継いだのちには、個人収集家や美術館の世界、美術取引の仕組みについても精通してゆきます。ヨーが定期的に作品を売却したのは、親子が生計を立てるためでもありましたが、フィンセント・ファン・ゴッホの**評価を確立するという大きな目的のため**でもありました。こうしたヨーの尽力を明らかにするのが、テオとヨーの会計簿です。テオの死後には作品の売却についても記されるようになり、ヨーがどの作品をいつ誰にいくらで売却したのか、生々しい記録が残されました。会計簿の調査・研究は進み、記載されたもののうち、170点以上の絵画と44点の紙作品が特定されています。

### 第5章 コレクションの充実 作品収集

1973年、ファン・ゴッホ美術館は主にフィンセント・ファン・ゴッホ財団のコレクションを展示する美術館として開館しました。ファン・ゴッホ作品と家族に受け継がれてきたほ



かの画家たちの作品を中心としながら、今日までにそのコレクションは少しずつ拡充されてきました。

1980年代後半から1990年代前半にかけては、寄付や寄贈の恩恵を大いに受け、ときにはファン・ゴッホ作品が加わることもありました。この時期に潤沢とはいえない予算を使って購入されたのは、ファン・ゴッホと関連のあるバルビゾン派やハーグ派、象徴主義の作品です。また、1990年代の終わり頃からは版画やポスターなどの紙作品の収集にも力を入れます。このコレクションはいまや世界屈指の質を誇るものとなりました。さらに収益が美術館にも分配される宝くじができると、これまで購入が難しかった作品が購入できるようになり、印象派やポスト印象派の作品をはじめ重要な作品が加わりました。

10:00～11:30 まで 鑑賞

11:30 出口に集合

みんなで歩いて

11:50 昼食 **Bellino** いつものイタリアンランチ

Pranzo A (平日ランチ限定) 1,400円

「グリーンサラダ」 「本日のパスタ」又は「ピッツァ」 「自家製フォカッチャ」  
ランチ付きの飲み物 or デザートはサービス価格となります。  
各自でリクエストください。店員に価格を確認して各自の清算となります。

以上